

第 12 回「三世代をつなぐ駒カフェ」開催の報告

在校生対象の第 12 回「三世代をつなぐ 駒カフェ」が 2022 年 5 月 28 日（土）14 時 30 分から 16 時 30 分まで Zoom ミーティングを利用して開催された。参加予定の在校生は 1 名だったが、この日は中間試験最終日のため、「急遽クラブ活動と重なってしまった」と欠席連絡が入った。スタッフのみ参加の駒カフェとなった。今回の駒カフェでは、5/21 に行ったスタッフの準備会で話し合ったことをもとにして、昨年度から 1 年間開催してきた「駒カフェ」を振り返り、在校生に魅力のある「駒カフェ」とするための工夫と具体的な修正点について意見交換をした。

まず、5 月 21 日（土）スタッフの準備会で話をした内容をいくつか紹介します。

- ① （小諸から Zoom で参加）機械化と地域社会の維持。人生や人間のことも話せるような場に。
- ② 駒カフェについては、どんな話しをしているのか、よくわからないことなどで踏み込むのにやや敷居が高い感じ。広めたいと思う。
- ③ 「Zoom ミーティング参加の注意点」 について、誤解されないように留意。
- ④ 駒カフェの今後の進め方。たとえば、OB スタッフ一人ひとりの得意分野の部屋を設けるなど、アピールする点を明確にし、これまでのやり方を打ち破る工夫が必要では。各自の得意分野(?) の切り口にもいろいろありそう。駒東生側もいろいろな課題を抱えているかもしれない。
- ⑤ テーマを絞るとカバー率の問題。
- ⑥ 人とのつながりの場の提供にも意味。つながりをしっかりと安心して成長していけるもの。

- ⑦ 読書会のようなテーマを絞った関係があってもよい。
- ⑧ 対象を中学と高校などに分けてはどうか。
- ⑨ あまりテーマを限定しすぎず、将来のことへの不安などを話すなどあっても。
- ⑩ 精神面の不安を抱えているようなケースは、対応に要注意。
- ⑪ OB スタッフは失敗体験を紹介するなど堅苦しいイメージを払拭した方がよい。
- ⑫ OB スタッフの自己紹介の工夫も色々あってよい。楽しくやっている写真や現場を見せるなど。
- ⑬ 駒カフェについては、かなり知られるようになってはいるが、実態がうまく伝わっていない面がありそう。今後、その辺を詰めて、慌てずアピール！

スタッフの感想（今回5/28の駒カフェ終了後）

- ① 今回はスタッフ同志で、駒カフェの存在は知られるようになったが、参加希望者が伸び悩んでいることへの対応が話題になりました。具体的には、ケーニヒスベルクの七つの橋問題、算額問題といった興味を引きやすいメニューの追加、ポスター掲載、運営の形態を具体的に示す、などでした。駒カフェが、こうした工夫を積み重ね、受験勉強やクラブ活動以外の駒東生の関心事を、実社会の荒波にもまれてきたOBが親身になって補完するような場になってくれたらと願っています。
- ② 一年の活動を踏まえ、生徒との距離感を感じる部分について討議した。取り敢えずの対策は打つが、根本的には駒カフェで何を得られるかを明確に伝えられていない為だと思う。また、伝わっても、それが何を意味するかを理解してもらえていないと思う。兎に角、より多くの生徒に駒カフェを経験してもらうようにしなければならない。引き続き考えていきたい。
- ③ 今回の会（zoom）では 駒カフェをどう魅力的なものにするか？ そしてそれをどう生徒諸君や保護者の方々に伝えるか？ そして一人でも参加者を増やすのにどうするか？ について話し合っ

た。「言うは易く、行は難し」と痛感した。ただ次回からは“対面でできるぞ!” とにかく何とかしなくては…6/11には早めに集まりポスターを作ろうと一決した。目を引くポスター 立ち止まってくれるポスター……ウーン その企画をねった。どんなものができるかな?

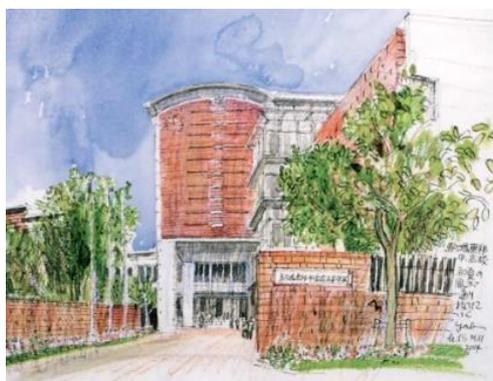
- ④ 参加予定者が急遽不参加で、世話人の駒カフェを楽しみました。世話人は、準備会も含めて月2回の会に毎回、全員が参加しています。駒カフェにはリモート参加が出来るので、世界のどこからも参加できます。出張先、旅行先からも、参加したいと思うのはなぜでしょう。なぜ現役生徒の参加が少ないのかが、話題になりました。60年前に現役だった7回生。おそらく現役の頃には、雑談をする楽しさは知らなかった。大学生、社会人になってから、その魅力を知ったように思います。中高時代を振り返って、カフェのような雑談の場があれば、良かったと思うことは、世話人で一致した思いです。素朴な疑問や気付いていない問題に触れること、自分の考えを深めること、考えを聞いてもらい整理すること、他の人の考えや体験から新たな興味を育てること、なんとなく話をすることで安らぎを覚えること、将来の人生の糧を得ること、などなど。駒カフェの特徴は、世代や時空を超えた雑談の場であって、素朴な疑問から人生経験までを広く話題にできる場であること、にあると思います。その時の思いに合わせて、自由に雑談の場を渡り歩けるのも駒カフェの良さだと気付きました。現役の皆さん、保護者の皆さんにとって、魅力的な駒カフェにする企画立案が駒カフェ・スタッフの悩みです。くつろぎの部屋、疑問や問題を話題にする部屋、何か分からない問題を考える部屋の構想。自然現象を話題にするテーブル、人生を語るテーブル作り。試行錯誤です。一緒に、思い出に残る雑談の場、「駒カフェ」を作りませんか?

- ⑤ コンピュータが壊れて、四苦八苦しています。少年時代の自分がどんな夢を見知らぬ爺さまに語れたか!振り返ると、どうみても、身を引くかな!わかりっこない。でも、はるか以前に、歩いてき

た道を想いおこしながら、ときを過ごしました。こんな時間に微笑みながらの余生は素敵だと思います。

- ⑥ 当日は中間試験最終日の午後で、おそらく在校生は中間試験から解放されて、伸び伸びと過ごす部活動などの時間を優先したのであろう。結果として、スタッフのみが参加する駒カフェとなった。参加希望者が増えない理由を意見交換した。駒カフェの名前は聞いたことがあるようだが、具体的に何をやっているのかが伝わっていないのではないかと。また、参加しようと思ってもひとりで参加することを躊躇してしまう。友達も参加するなら・・・などの声も聞いている。今年度は学校からの伝達方式がBLENDに変わったので、在校生と保護者がホームページを見る機会が減ったのではないかと。開催案内をホームページに掲載するだけではうまく伝わっていないのではないかと。これらの問題点を解決するために、スタッフが模造紙にポスターを作成して、生徒たちの目を引くような広報活動を行うことにした。まずはOBたちが在校生のことを思って楽しく活動している姿を見せていくことにした。

- 駒カフェの開催報告をご覧になって、興味を持ち、参加してみようかと思われた方は、下記に記載の運営事務局までご連絡願います。次回以降の駒カフェ開催案内をメールで送らせて頂きます。



「三世代をつなぐ駒カフェ」運営事務局

代表 黒岩 誠（駒場東邦7回生/前スクールカウンセラー）

平野 勲（駒場東邦スクールカウンセラー/前校長）

連絡先 komacafe1540001@gmail.com

駒カフェ🍵でお会いしましょう。